

I 第29週の発生動向 (2009/7/13~2009/7/19)

1. インフルエンザについては、上十三保健所管内において1人(迅速診断キットによる結果:B型)の届出がありました。
2. 水痘については、むつ保健所管内において、**注意報**が発令されました。
3. 手足口病については、青森市保健所管内において、前週に引き続き**警報**が発令されています。

II 新型インフルエンザ情報 (第29週現在までの累計)

第28週: 弘前保健所管内: 2 検体陽性、青森市保健所管内: 4 検体陽性。
第29週: 発生はありませんでした。

III 第29週五類感染症定点把握 注: 五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数	東地方(再掲)		青森市(再掲)	
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点
小児科 内科 (85) インフルエンザ									1	0.1			1	0.0	1				
小児科 (74) RSウイルス感染症			1	0.1									1	0.0	0				
(75) 咽頭結膜熱	2	0.2	2	0.2	1	0.1					6	1.5	11	0.3	4			2	0.3
(76) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	11	1.2	13	1.4	6	0.7	2	0.4	11	1.8	1	0.3	44	1.0	-1			11	1.4
(77) 感染性胃腸炎	12	1.3	13	1.4	5	0.6	9	1.8	8	1.3	14	3.5	61	1.5	-8	6	6.0	6	0.8
(78) 水痘	14	1.6	2	0.2	29	3.2	2	0.4	8	1.3	19	4.8	74	1.8	47			14	1.8
(79) 手足口病	92	10.2	5	0.6	1	0.1	7	1.4	5	0.8	4	1.0	114	2.7	16	2	2.0	90	11.3
(80) 伝染性紅斑	6	0.7											6	0.1	-1			6	0.8
(81) 突発性発しん	10	1.1	4	0.4	3	0.3	1	0.2	3	0.5	3	0.8	24	0.6	4			10	1.3
(82) 百日咳															0				
(83) ヘルパンギーナ	4	0.4	10	1.1	1	0.1			2	0.3	1	0.3	18	0.4	-5			4	0.5
(84) 流行性耳下腺炎	5	0.6	2	0.2	3	0.3							10	0.2	-19			5	0.6
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0				
(87) 流行性角結膜炎							3	3.0	1	0.5			4	0.4	1				
基幹 (95) マイコプラズマ肺炎			1	1.0	3	3.0							4	0.7	-2				

保健所名	定点数			
	インフルエンザ(内科+小児科)	小児科	眼科	基幹
東地方	2	1	0	0
青森市	11	8	2	1
弘前	15	9	3	1
八戸	14	9	2	1
五所川原	7	5	1	1
上十三	9	6	2	1
むつ	6	4	1	1
合計	64	42	11	6

■は警報、■は注意報。「空欄」: 患者発生無し。

IV 表II以外の感染症法対象疾患 (注: 届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患): 弘前2人、五所川原1人、青森市1人 (21年計:185人)
- (34) つつが虫病(四類全数把握疾患): 青森市1人 (21年計: 8人)

過去の全数把握疾患については、月報をご覧ください。

V 病原体検出情報 ※ () 内の日付は検体採取日です。

- ・八戸地域における髄膜炎患者1名(6/15)の糞便及び髄液から、**コクサッキーウイルスB3型**が検出されました。
- ・青森地域における手足口病(脳症疑い)患者1名(6/23)の糞便から、**コクサッキーウイルスA16型**が検出されました。
- ・青森地域における急性脳症患者1名(6/25)の咽頭ぬぐい液から、**アデノウイルス2型**が検出されました。

感染症の窓

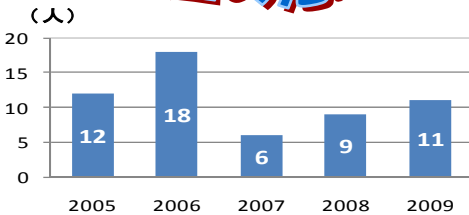


図1 年別届出数推移(国内) (暫定届出数)



図2 オーシスト微分干渉写真

(国立感染症研究所IDWRより引用)

クリプトスポリジウム症

(五類全数把握疾患)

クリプトスポリジウム症は、**ウシ、ブタ、イヌ、ネコ、野生動物**などの腸管に寄生する原虫が環境中にオーシスト(嚢包体)として糞便とともに排出され、汚染された水や手指などを介して感染する疾患です。症状は、下痢、腹痛、倦怠感、食欲低下、嘔気、嘔吐などです。2009年第29週現在、東京都(1人)、北海道(1人)、青森県(累計9人)において届出があります(図1)。本県では、7月上旬に動物が原因と考えられる感染事例があり、全症例で下痢が見られその他、腹痛、嘔気、嘔吐などの症状がありました。オーシストの直径は3μmから8μmですが(図2)、1個の摂取でも発症するほど感染力が強いことから、動物に触れた後の手洗い、山林などの野外では生水を飲まないなどの注意が必要です。